

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 9 月 7 日現在

機関番号：32672

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2014～2016

課題番号：26285203

研究課題名（和文）幸福・効率・公正から再編成する経済教育プログラムの開発

研究課題名（英文）Program-Development Study of an Economics Education Focused on Value Concepts of Happiness, Efficiency, and Fairness.

研究代表者

猪瀬 武則（INOSE, TAKENORI）

日本体育大学・児童スポーツ教育学部・教授

研究者番号：40271788

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 8,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、幸福・効率・公正の価値概念を中心とした経済倫理に視点を置いた経済教育カリキュラムを構成し、プログラム開発を行った。構成原理は、功利主義・義務論・徳倫理を基底においた倫理的多元主義である。その理論的基礎をジョナサン・ワイト、アイザイア・バーリンに依拠した。カリキュラム開発の上では、英米豪独の関連カリキュラム教材を検討した。また、経済倫理認識調査を1400名弱の高校生、大学生を対象に実施した。それらをふまえて、10単元の内容開発を行った。その内、「医者と患者の情報の非対称性ゲーム」の実践から、有効性を確認した。

研究成果の概要（英文）：In this study, we developed a school program focused on ethics in economics, centered on value concepts of happiness, efficiency, and fairness. Its organizing principle was ethical pluralism based on utilitarianism, deontology, and virtue ethics. We studied related curricula of schools in the USA, the UK, Australia, and Germany, and made a survey of the understanding of ethics in economics among about 1400 Japanese undergraduates and senior high school students. On the basis of this evidence, we developed 10 lesson plans and confirmed the validity of the lesson plan "Role-play of a doctor and a patient in conditions of asymmetric information."

研究分野：経済教育，社会科教育

キーワード：経済倫理 倫理的多元主義 功利主義 徳倫理 情報の非対称性

## 1. 研究開始当初の背景

年金・医療・雇用に関する格差や不公平を巡る課題は、社会科教育・経済教育においても喫緊の課題である。なにより、当該教科での従来の扱いに加えて、新学習指導要領に効率と公正、幸福・正義などの価値概念が導入されたことにより、カリキュラムや内容開発の課題は深まったといえよう。

社会科に価値概念を導入する課題は、これまで「価値学習」(中野重人 1978;今谷順重 1978,1986)、「政経と倫理の統合的扱い」(工藤文三 1990)、「効率と公正の扱い」(大杉昭英 2004)、また「経済教育での倫理的基礎付け」(猪瀬 2009)などで取り組まれてきた。しかし、「近年の人文社会科学の成果導入」、「子どもの実態に即した教育現場での扱いやすい展開」などの課題は依然として残っている。そこで具体的な内容開発の課題を3つにまとめる。

第1に、近年の政治哲学、経済哲学の進展をふまえた効率・公正についての構成である。現在までに、功利主義(最大多数の最大幸福)・ロールズのリベラリズム(格差原理=弱者救済保険原理)・コミュニタリアンの共通善、アマルティア・センの潜在能力アプローチなどから構成がある。しかし中学生にも教授可能で平易な内容開発は課題である。また、経済哲学の概念枠組「効率と正義・自由と卓越」(塩野谷『経済と倫理-福祉国家の哲学』東大出版会、2002)、功利主義ルネッサンスの進展(児玉聡『功利と直観』勁草書房 2010)もふまえる必要があり、一方、概念選択の適時性には、子どもの認識・意識実態の調査も必要である。

第2に、経済学の幸福研究やブータンの幸福指標と子どもの認識・意識をふまえた内容開発である。たとえば、経済性や生き方など様々な指標から成人の幸福度の検証をした研究(筒井・大竹『日本の幸福度』日本評論社 2010)にあるイースタリンのパラドックス(所得が増えても幸福度は高まるとはかぎらない)は、子どもの素朴な認識・意識実態とどのように関わるだろうか。またブータン国が提起する経済外指標「国民総幸福(GNH)」や「幸福度に関する研究会」(内閣府)の指標は、具体的・実質的な内容開発をする上で、子どもの認識や意識の実態とどう関わるだろうか。これらが明らかにされる必要がある。

第3に、海外の公民・経済教育が、「価値」への志向性を強めており、その動向をふまえて、世界的規模での位置づけが必要である。「シティズンシップにおける価値と目標」をテーマとした国際公民社会経済教育学会(2011年6月、英国バース・SPA大学)では、英国やスウェーデンから、価値志向の経済カリキュラムが提示された。また、ドイツで作成された「経済教育スタンダード」は、持続可能性や価値の扱い、正義や格差是正などを含めたスタンダードの改訂が提起されてい

る。米国では、経済教育学会(CEE)が『経済学の倫理的基礎付け』(Wight 2007)を刊行し、行動経済学から経済哲学をふまえた価値概念導入カリキュラムを提示している。これらの構成原理を明らかにすることにより、先に示した二つの課題である「近年の人文社会科学の成果導入」、「子どもの実態に即した教育現場で扱いやすい展開」に答えることが出来る。

以上、現在の社会問題に対応した「効率と公正」「幸福・正義」のプログラム開発は、喫緊の課題であり、それは、政治哲学・経済哲学・倫理学の進展、幸福研究に呼応した子どもの認識・意識をふまえ、さらに世界の教育動向を取り入れたものでなければならぬ。

## 2. 研究の目的

カリキュラム・プログラムの国際比較分析および、高校生・大学生の(経済的)価値・倫理意識調査などの分析結果から構成原理を導出し、新たな社会科・経済プログラム開発を行い、活用可能性・妥当性を関連学校での実験授業で検証する。

## 3. 研究の方法

- (1) 社会認識・経済認識における倫理意識調査  
 高校・大学生の経済的価値・倫理認識・意識調査(効率・公正・徳性・幸福・善の5領域35問をリッカートスタイルで日本版作成)により「経済倫理意識」の現状を把握し、プログラム開発の基礎とする。2000人規模。
- (2) 経済倫理、社会科倫理カリキュラム・プログラムの国際比較  
 英・米・独・瑞・豪・中・韓の関連プログラムの類型化を行う。作業類型は、一国内でも複数類型が混在することを前提としつつ、実地調査も含めて、各国実情を明らかにする。プログラム開発の構成原理及び内容抽出・ロールズの「反省的均衡」を、ワークショップ型方法論上の価値探究の基礎とする。内容抽出は、行動経済学を含む幸福研究、「正・善・徳」からの概念枠組み(塩野谷モデル)、ドイツ経済教育学会の価値志向スタンダード、英国「福祉経済カリキュラム教材」(Davies 2009)、米国の経済倫理教材(Wight 2006)分析などから抽出。なお、ロールズからセン、ハーバースにいたる正義・分配・効率の理論的基礎付けは、塩野谷はじめ先行研究に負う。

## 4. 研究成果

諸外国の関連プログラム調査、高校生・大学生の経済倫理理解調査などのエビデンスをふまえて、倫理的多元主義に基づく新たな経済倫理プログラムを開発し、検証した。

- (1) 諸外国の関連プログラム調査

米国、英国、豪州、独国の調査結果を報告する。

米国では、リーマンショック後に展開された市場機能重視型の経済倫理教育のあり方と、米国における経営倫理学の研究成果から経済倫理教育の現状を検討した。

英国では、経済教育関連教科書、シティズンシップ教育、GCSE（前期中等教育修了資格認定試験）の経済学内容、Jacek Brantの経済学教育批判から経済倫理教育状況を総括した。

豪州では、ナショナルカリキュラムを検討し、経済概念40項目の内10項目の経済倫理（幸福・効率・公正）概念を確認した。「幸福」は、「個人や社会の生活の質のための総合的な尺度」、「経済発展」は、「生活水準について質的（幸福）改善」、「外部性」は「第三者や社会の幸福」、「公正」は、「希少な資源の使われ方や生産による利益の分配のされ方について認識される正しさ」と定義されるものの、その基準適用についての具体的言及はない。

独国では、諸州の前期中等教育段階における経済関連教科の主要な系統を取りあげ、経済倫理に関する取り扱いの有無や特色を考察した。そこでは、教師が特定の評価判断を教化するのではなく、ミクロな経済生活の形成やマクロな経済社会の形成のための経済教育を通して、生徒自らが多元的な視点で評価判断をつくりだし、望ましい在り方やその根拠を熟考的に探求できるようにする経済倫理教育がすすめられている。

## (2) 大学・高校生の経済倫理意識調査

経済と倫理、道徳性基盤に関する理解と意識調査を開発し、実態を調査した。

ここでは、経済概念や経済学とそれらに準拠する「帰結主義」「義務論」「徳倫理」の部分的価値観や態度を前提とした知識の理解を測るために、23項目の経済概念と倫理概念（9つの領域：情報の非対称性、合理的利己心、互恵的利他主義、競争的労働市場、需要供給、厚生・選好、企業の社会的責任、公正正義）とジョナサン・ハイトの5つの道徳性基盤（ケア（思いやり）・自由、公正、忠誠、権威、神聖）に関する意識調査を高校生（N=867）および大学生（N=673）対象に試みた。その相関を一元配置の分散分析により検証した。

経済倫理意識とハイトの道徳性基準の相関は、ケア（思いやり）と競争的市場・需要/供給・企業の社会的責任、公平と合理的利己心、神聖と情報の非対称性・互恵的利他主義・厚生/選好にみられた。

全般にハイトの3道徳性基準（忠誠・権威を除く）と7経済倫理概念（正義以外）は相関があることが明らかになった。

結論として、経済倫理の正答率の道徳性基準との相関では、今回の調査で高校生はリベラル型であり、大学生は保守型であった。ただし、経済倫理概念としての公正/正義と、道徳性基準の公正（公平）は内実が異なり、注

意が必要である。

	ケア・自由			公平			忠誠			権威			神聖		
	平均	F	p	平均	F	p	平均	F	p	平均	F	p	平均	F	p
情報の非対称性													1.496	1.027	0.001
合理的利己心				1.116	1.854	0.058							1.103		
互恵的利他主義				0.851									0.614	1.028	0.001
競争的労働市場	1.329	1.823	0.026										0.427		
需要供給	0.729														
企業の社会的責任	1.072	1.662	0.001												
公正/正義	0.619												1.235	1.084	0.001
ケア	0.716	1.828	0.016										0.762		
自由	0.385														

図1 経済倫理理解正答率と道徳性基盤

## (3) 構成原理：多元主義経済教育論

構成原理を、倫理的多元主義に求め、多元主義経済教育の構成を図った。

これは、重層する現実に関連させて、単一の価値や原理に還元できない複数の価値や原理を許容する立場である。そのフレームワークは、帰結主義・義務論・徳倫理であり、この三つの価値及び原理を包括する二つの側面を、領域を横断する理論分岐と領域に内在する理論分岐として、垂直的多元主義と水平的多元主義から構成したものである。

## (4) 中等教育段階の開発プログラム

下記の10単元を開発した。経済概念（特に情報の非対称性）と幸福・効率・公正・正義を関連させつつ、先に示した三つのフレームワークの倫理的立場を常に意識させつつ、構成した。

表1 経済倫理カリキュラム

1	幸せってなんだろう？ トロッコ問題から経済倫理の基本をつかむ
2	コンサートチケットの転売問題
3	市場は倫理的基準を必要とするか？
4	情けは人のためならず（功利か義務か？）
5	がん治療薬オプジーボは、どこまでか？
6	ブラック企業とスウェットショップ
7	企業の社会的責任はどこまでか？
8	どこまで保険は可能か？
9	幸福の王子はどこまでか？
10	格差をどう捉えるか

## (5) 授業実践

研究協力者と共に、「医者と患者」に関する「情報の非対称性」をベースにしたロールプレイ・ゲームを授業実践し、一定の成果を得た。

医者にモラルハザードを起こさせる医療行為をしくみ、それに対応した患者の反応を織り込んだゲームであり、これによって、情報の非対称性によるモラルハザードが市場の効率性を阻害すること、功利主義、義務論、徳倫理の考え方を活用して、モラルハザードのような非効率なことを引き起こさない対策を考えさせることとした。

量的データは定期考査での結果、質的データでは、実践後の記述変化を検討した。理解度では、モラルハザードと効率性、功利主義・徳倫理の理解が8割、カント的理解が5割程度であった。保険の有無(インセンティブ)によって、行動が変化するという「経済学の基本的考え方」を把握していない生徒が6割以上に上り、この点で学習過程の設定をより聖地に構成していかななくてはならない。本実践によって、開発された経済倫理プログラムは、経済学概念と倫理概念を「論争問題」や「ゲーム」などを通して、理解させ、考察させることが可能であることを一定の範囲で明らかにすることができた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計13件)

- (1) 猪瀬武則(2017). 「多元主義経済教育論—中等経済教育のスタンダード化を巡る論争をふまえて」『経済教育』第36号, 査読無
- (2) 猪瀬武則(2016). 「英国の批判的経済学教育論 - 対抗スタンダード化の動向」『経済教育』第35号, pp.40-48. 査読無
- (3) 猪瀬武則(2015). 「グローバル化下の経済と倫理の扱い-小学校社会科の援助と開発のプログラム」『経済教育』第34号, pp.136-143. 査読無
- (4) Bates, A., Lucey, T., Inose, T., Yamane, E., Green, V. (2014). College Students' Interpretations of Financial Morality: An International Comparison, *Journal of International Social Studies*, Vol. 4, No. 2, pp.6-22. 査読有
- (5) 猪瀬武則(2014). 「経済的見方から構成する農業学習—効率と公正の両立をめざして」『社会科教育研究』122号, pp.18-28. 査読有
- (6) 金景模・猪瀬武則(2014). 「日本の学校経済教育研究(一) - 2008年カリキュラム改定の実相」経済教育学会『経済教育』33号, pp.123-129. 査読有
- (7) 山根栄次(2016). 「社会科・公民科における経済教育での価値・倫理の扱い」『経済教育』第35号, pp.15-18. 査読無
- (8) 山根栄次(2016). 「学校における経済教育の体系(一)」『三重大学教育学部研究紀要』, 第67巻, pp.321-335. 査読無
- (9) 宮原悟『『経済教育』研究(9)』『幸福』『正義』『公正』を視座とした高等学校公民『現代社会』の教科書分析に見る課題』『名古屋女子大学紀要人文・社会編』第62号, pp.153-163, 2016年. (査読無)
- (10) 服部一秀「過去とその取り扱いの探究能力を育成する歴史教育の導入単元—ドイツの事例から—」『山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター研究紀要』No.21, pp.91-102, 2016年(査読無)
- (11) 栗原久「現代社会における紛争解決スキルの意義と必要性」, 『TASC MONTHLY』(公益財団法人たばこ総合研究センター), No.475, pp.6-12, 2015
- (12) 宮原悟「オーストラリア『経済教育』研究(3) - ナショナルカリキュラム『経済とビジネス』に見るオーストラリア『経済教育』の方向性 -」『名古屋女子大学紀要 人文・社会編』61号, pp.153-164, 2015年(査読無)
- (13) 服部一秀「前期中等歴史教育における歴史映画分析学習のための授業構成—ベルリンにおける歴史授業『映画の中のナチズム』の場合—」『山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター研究紀要』No.20, pp.79-94, 2015年(査読無)

[学会発表](計12件)

- (1) INOSE, T., TAKAHASHI, K., KURIHARA, H., MIYAHARA, S., HATTORI, K., and YAMANE, E. (2016). Understanding the Ethical Foundations of Economics among Japanese Senior High School Students, The 42nd Association for Moral Education Annual Conference, Harvard Graduate School of Education December 8-11, Cambridge, The USA
- (2) 猪瀬武則, 山根栄次, 栗原久, 高橋桂子, 宮原悟, 服部一秀, 小貫篤, (2016). 「高校生の経済倫理の現状—理解とハイトの道德的基盤は関連するか」日本教科教育学会第42回全国大会, 鳴門市, 10/22.
- (3) 猪瀬武則 (2016) 「中等経済教育のスタンダード化を巡る英米のカリキュラム論争から - 経済学を教えないこともありうる経済教育へ -」第32回経済教育学会全国大会・シンポジウム講演, 神戸市, 9/10.
- (4) 猪瀬武則 (2016) 「倫理的多元主義としての経済教育—基本とカリキュラム構想」全国社会科教育学会, 兵庫教育大学, 加東市, 10/8.
- (5) 猪瀬武則, 小貫篤 (2016) 「経済倫理学習の授業構成と展開—情報の非対称性の場合—」全国社会科教育学会, 兵庫教育大学, 加東市, 10/8.
- (6) 猪瀬武則 (2016) 「講義かアクティブ・ラーニングか? - 米国経済学会の経済学教授方法論争」全国社会科教育学会, 兵庫教育大学, 加東市, 10/8.
- (7) Takahashi, K. and S. Nakashima (2016). Effects of Japanese husbands' participation of household work/child care on their wives intention to bear children, IFHE, 08/02, Daejeon Convention Center Daejeon, KOREA
- (8) 猪瀬武則, 山根栄次, 栗原久, 服部一秀, 宮原悟, 高橋桂子 (2015) 「経済教育は倫理とどのように関わるか—大学生の経済倫理認識調査から分かったこと」日本社会

- 科教育学会，宮城教育大学，仙台市，  
11/08.
- (9) INOSE, T.(2015). Understanding the Ethical Foundations of Economics in Japanese Undergraduate Students, APNME at The University of Sydney, Sydney, Australia 12/05.
- (10) INOSE, T., TAKAHASHI K. and MIYAHARA S.(2015), Economics Education as a “Tower of Babel” Problem: How do Japanese Pre-service Teachers Perceive Economics Concepts?, IACSEE at Göttingen University, Göttingen, Germany 06/03.
- (11) Kuramoto, Ayako, Konuyo, Kurokawa, & Keiko Takahashi(2015), Fathers’ attitudes toward cooking and Family Life Education in Japan, NCFR 77th Annual Conference, 2015, Hyatt Regency, Vancouver, British Columbia, 11/11, CANADA
- (12) 猪瀬武則(2015)「英米の批判的経済教育論」経済教育学会，日本体育大学，世田谷区， 9/27

## 6．研究組織

- (1) 研究代表者  
猪瀬武則 (INOSE, Takenori)  
日本体育大学・児童スポーツ教育学部・教授  
研究者番号：40271788
- (2) 研究分担者  
山根 栄次 (YAMANE, Eiji)  
三重大学・教育学部・教授  
研究者番号：50136701
- (3) 研究分担者  
栗原 久 (KURIHARA, Hisaishi)  
東洋大学・文学部・教授  
研究者番号：00345729
- (4) 研究分担者  
高橋 佳子 (TAKAHASHI, Keiko)  
実践女子大学・生活科学部・教授  
研究者番号：50311668
- (5) 研究分担者  
宮原 悟 (MIYAHARA, Satoru)  
名古屋女子大学・文学部・教授  
研究者番号：50239430
- (6) 研究分担者 (HATTORI, Kazuhide)  
服部 一秀  
山梨大学・総合研究部・教授  
研究者番号：60238029
- (7) 研究協力者  
小貫 篤 (ONUKE, Atsushi)